

おうしゅう環境フォーラム2013

いのち育む『水』～焼石から胆沢へ、そして私たちへ～



『胆沢ものがたり 2013～じゃじゃじゃな胆沢のはなし～』（いさわジュニアミュージカルスクール）



オープニング「三面大黒舞」「七福神舞」（塚の山少年隊）



「22世紀ブナの森づくり」
佐々木壽雄さん



紙芝居『おおすずのいさわ』（千田和子さん）



寺田結芽さん

千田想楽さん

エコクラブ活動発表（みずさわエコキッズ）



当日は 250 名が参加

奥州めぐみネットと奥州市は、11月30日(土)、胆沢文化創造センターを会場に「おうしゅう環境フォーラム2013」を開催しました。

7回目となる今回は、「いのち育む『水』～焼石から胆沢へ、そして私たちへ～」をテーマに、基調講演や、最年少小学2年生から最年長82歳まで幅広い年代の方による活動発表、各種団体のブース展示、エコ・アイデアの展示・表彰などを行いました。

実行委員・スタッフとして運営にご協力いただいた皆様、また、当日ご参加いただいた皆様に改めて感謝申し上げます。



基調講演『環境先進国の水と川づくりと環境意識の育て方』

講師：一般社団法人いわて流域ネットワーク 代表理事

岩手県環境アドバイザー 内田 尚宏 氏



講演要旨

<デンマークのエネルギー供給事情>

デンマークの環境政策は大気と水質を重要視。環境政策は「国民の健康管理」と「国の安全と自立」のため。

エネルギー自給率は、1972年はわずか2%であったものが、現在は156%となっている。他国に先駆けて原発を使用しないことを決めた国であり、発電を自然エネルギーで賄っている^(※)。酪農の国であるが、家畜の糞尿を撒くことは禁止されており、タンクに貯蔵した糞尿から出るメタンガスを利用して発電している。

電気の16%は市民が作っており、風力発電は1農家に1基の設置を進めている。手続きも簡略化されており、発電施設整備の許可も電話1本でできる。

デンマークは森林率14%であるが、チップを利用した木質バイオマス発電を進めている。岩手は森林率が80%近くあるので、もっと木質バイオマス発電ができるはず。

暖房も薪を利用し、地域で自立したエネルギー供給体制となっている。木を燃やすことは環境破壊ではない。木は資源として唯一再生産できるものである。切ったら植えればよい。

デンマークのような環境先進国は、10年後20年後の岩手の姿を見るような気がする。

(※デンマークにおける発電のうち、再生可能エネルギーが占める割合は2010年で32.1%)



<スイス・ドイツの川づくり>

スイスやドイツの川づくりは「近自然河川工法」で行われている。日本の河川は急勾配だから欧州の川づくりは参考にならないと思われがちだが、欧州でも上流の方は日本の川と変わらない勾配なので参考になる。

スイスやドイツでは、洪水にならないことが基本で、その上でいかに生物多様性を図るか、という考え方で川づくりが行われている。

川づくりのキーワードは「ランドシャフト（気持ちいい、心地いい）」。ランドシャフトとは、五感プラス心で感じるものの総体。



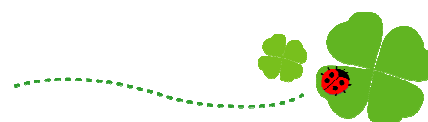
<環境教育>

幼児期に時間をかけて失敗しながら学ぶ、集中して遊ぶことが重要。将来難しいことに対して集中力がつくと言われている。

暗黙知（体験から得るもの）と形式知（教科書や文字で表すことのできるもの）のバランスが重要。

自然との接し方を知らない子どもたちに、教科書などで地球の危機や自然破壊を伝え過ぎると、「怖い」「つらい」という思いを抱き、避けるようになる。幼少期に「自然はいいもの、楽しいもの」であることを経験すると、将来、いいものは大切にする、守るという思いにつながるの、子どもたちには、とにかく楽しませることが重要。

子どもたちに自然体験する場を与えるのが大人の責務。そのことによって持続可能な社会が作られる。難しいことを教えるのではなく、一緒に楽しむことが大切。



エコ・アイディア表彰～一人のエコからみんなでエコへ～

昨年に引き続きエコ・アイディアを募集したところ、一般部門には8件、新設の中学生部門には66件の応募がありました。

審査委員会（菊池光子審査委員長ほか4名）による審査の結果、次のとおり入賞者を決定し、フォーラム当日に表彰しました。



【一般部門】

※敬称略

賞	受賞者	タイトル
	氏名・団体名	
めぐみネットエコ大賞	全国友の会 水沢友の会	暖かく暮らせる ねこ絆纏
めぐみネットエコ賞	あたごを愛する女性の会	だれでもできる台所からのエコ発信
もっと広げま賞	J A江刺女性部岩谷堂支部	簡単手ぬぐい帽子

【中学生部門】

※敬称略

賞	受賞者		タイトル
	学校名	氏名	
めぐみネットエコ大賞	小山中学校	阿部 結衣	ecoはいつするの？
めぐみネット特別賞	小山中学校	生徒会	志～共に生きる～ 私達にできるエコ
めぐみネットエコ賞	前沢中学校	鈴木 かれん	あまりご飯で・・・「ごはんだんご汁」
同 上	水沢中学校	佐藤 凌	たまごのぼろぼろ
同 上	小山中学校	佐々木 佳乃	寒さなんかには負けない！！エコ対策
同 上	小山中学校	菅原 流瑠	我が家の節約自情
同 上	小山中学校	武田 真	太陽の光とこわれた傘でエコクッキング
同 上	小山中学校	佐藤 光莉	スポンジの水切り用ペットボトル
同 上	小山中学校	岩渕 渚	こわれたら肥料にできる皿！？
同 上	小山中学校	佐藤 博一	我が家の節電対策
同 上	小山中学校	千葉 涼夏	昔の技術を取り入れよう！！
同 上	小山中学校	加藤 ゆう	中学生だからこそ！？できるエコ

大賞受賞作

【一般部門】全国友の会 水沢友の会

「暖かく暮らせる ねこ絆纏」 ばんてん

綿入れ絆纏の背中の部分をリュックのように肩ひもで背負うものです。古毛布、フリース地、着物などの再利用で簡単に作れます。とても着ごちよく温かくエコにつながる優れたものです。中越地震や東日本大震災の支援に活用し大変喜ばれております。



【中学生部門】小山中学校 阿部 結衣 さん

「ecoはいつするの？」

この絵は、ある1枚の服について、今後どうするかで、その服の将来が変わるという絵です。別の人に使ってもらったり、形を変えて、また使えばecoになります。ムダな使い方をして欲しくない、そんな気持ちで書きました。



＜人気投票結果＞

フォーラム当日に実施した、参加者による人気投票の結果は次のとおりでした。投票していただいた皆様ありがとうございました。

- ☆第1位 全国友の会水沢友の会「暖かく暮らせる ねこ絆纏」 27票
- ☆第2位 高橋睦子さん「あったかマフラー付帽子」 25票



投票者に贈呈した
アクリルたわし



団体・事業所展示コーナー

エコ・アイデア展示

地産地消コーナー

振舞い汁



せっけんの会



奥州金ヶ崎行政事務組合



胆沢ダム工事事務所



工藤建設株式会社



衣川小学校家庭科クラブ



奥州市政策企画課



里山生活学校



奥州めぐみネット (運営会議)



奥州めぐみネット (環境学習部会)



エコ・アイデア展示 (一般部門)



エコ・アイデア展示 (中学生部門)



めか釜



食事コーナー



振舞い汁



地産地消コーナー

今号はフォーラム特集号のため、通常の連載はお休みします。

事務局 奥州市水沢区大手町一丁目1番地 奥州市役所市民環境部生活環境課内
 電話 0197-24-2111 / ファックス 0197-51-2374 / メール seikatsu@city.oshu.iwate.jp
 ホームページ <http://www.city.oshu.iwate.jp/htm/kankyou/meguminet.html>

